

【アピール】

『市長は、後援会企業の市発注工事等にかかる疑惑・不正の真相を明らかにし、しかるべき責任を』

明るい革新吹田市政をすすめる会  
革新府市政をすすめる吹田連絡会

さる10月31日、吹田市庁舎の工事発注をめぐる不正と疑惑がマスコミで一斉に報道されました。

環境省の「グリーンニューディール基金」を活用した太陽光パネル設置工事において、市長の後援会幹部の経営する企業に2,250万円もの契約金額で、単独随意契約で発注していたことが明らかになりました。

しかも、この企業の関連会社は、井上市長の私設秘書が役員として報酬も受け取り、建設業法における常勤する「専任技術者」として届け出ており、違法性まで問われる大問題となっています。

2011年4月に誕生した井上市政は赤字体質の予算は問題として「財政非常事態宣言」を行い、「行政の維新プロジェクト」を推進。事業見直しや市職員の削減、アウトソーシングの推進、市民負担の引き上げなどを進めてきました。しかし、2011年度決算では臨時財政対策債（借金）を発行せず、財政調整基金（貯金）の取崩しも2億5千万円にとどまり、実質収支も黒地を維持するなど、「維新プロジェクト」の財政効果が現れる前から、健全な財政状況であることが明らかになり、「財政非常事態宣言」も市民に危機感を与えるためのまやかしであったことが明らかになりました。

市民には、福祉バスきぼう号の廃止やゴミ袋の廃止、はり・きゅう・マッサージ助成などくらしや福祉を大幅に削減し、がまんを押し付けておきながら、市長の後援企業には国の補助金を使って安易に儲けさせていたのです。このことに対して、市民から大きな怒りが湧き起こっています。

市長は、記者会見で「知らなかった。職員がやった」と責任を職員に押し付け、さらには「真相究明を行い、処分を行っていく」と言っていますが、問われているのは手続きの誤りではなく、市長への疑惑です。部下に責任を押しつけ処分するようなことは絶対にしてはいけません。まずは自身の疑惑の真相を明らかにし、しかるべき責任を取るべきです。

さらに井上市長は、今回の問題により「大阪維新の会」を離党しました。「大阪維新の会」は、「大変不適切な契約」「大阪維新の会の方針から外れている」と党の政策に重大な背信行為であると表明しており、除籍か除名が相当にもかかわらず、除籍する前に離党を承認しているのは、「臭いものにフタ」であると言わざるを得ません。

維新の会・公認候補として「維新ブーム」の追い風に乗って当選した井上市長は、54662人もの有権者の支持を得て当選しました。離党は有権者に対する裏切りであり背信行為にあたります。少なくとも有権者・市民に対して、今回の「離党」という裏切りについて謝罪し、今後どのような政策を、どんな政治基盤のもとに実行するのか明らかにすべきです。

吹田明るい会は、今般の工事発注に関する不正・疑惑問題について、後援企業に単独随意契約で発注していたことへの疑惑、私設秘書が受注企業の関連会社に常勤し報酬を受け取っていたことに関する疑惑、「知らなかった」ですまされない市長の態度とその責任について、吹田市長として責任ある対応を行い、自身への疑惑に対してその真実を明らかにし、市民に信を問うことを強く求めるものです。

また、吹田市と吹田市議会においても徹底した真相究明を行い、その根本的な要因について解明し、その改善に全力をあげることを求めます。

以上